

市電 11 型 30 号車輛 1 輛

市電 11 型 30 号車輛

しでん 11 がた 30 ごうしゃりょう

分野／部門

有形文化財／歴史資料

所有者

大阪市高速電気軌道株式会社

所在地

大阪市住之江区緑木 1

紹介



市電開業当初に運転された 1・2 号車は、台車がドイツ・ヘルブランド製、車体が汽車会社製の木製車輛であった。また、明治 36 年(1903)12 月に投入された 5 号車は、2 階付きの電車であった。しかし、これらをはじめとする初期の車輛であった 10 輛は現存していない。

これに次ぐ型式の車輛が、11 型である。第 2 期線の開通に伴って投入された 2 本ポールを持つ単車(四輪車)で、明治 41 年(1908)6 月から 45 年(1912)5 月の間に 280 輛が製造された。戦災を受ける直前には 21 輛が残存していたが、戦災で 15 輛が焼失した。現存する車輛は、明治 45 年 6 月、梅鉢鉄工所で製造された 285 号車で、昭和 11 年(1936)6 月に廃車となった。その後、留置されていたものを昭和 30 年(1955)に当初の形に復元したものである。

全長 8,306mm、車幅 2,350mm、高さ 3,289mm、自重 7.98t で、定員は 42 名。台車はブリル 21E 型で、主電動機は GE 製 20 馬力 2 台、制御装置はハンドブレーキである。屋根は段落ち屋根で、側面には腰細サイドパネルを付ける。運転台には窓ガラスがなく、出入口扉もない。

この形式の車体は、その後 3 度にわたって改造され、運転台ガラス窓の設置、出入口折戸の取り付けなどが実施された。

参考文献

大阪市交通局編『大阪市交通局五十年史』(大阪市交通局 1953)

大阪市交通局編『大阪市交通局七十五年史』(大阪市交通局 1980)

大阪市電編集委員会編『大阪市電－路面電車 66 年の記録』(鉄道史資料保存会 1980)